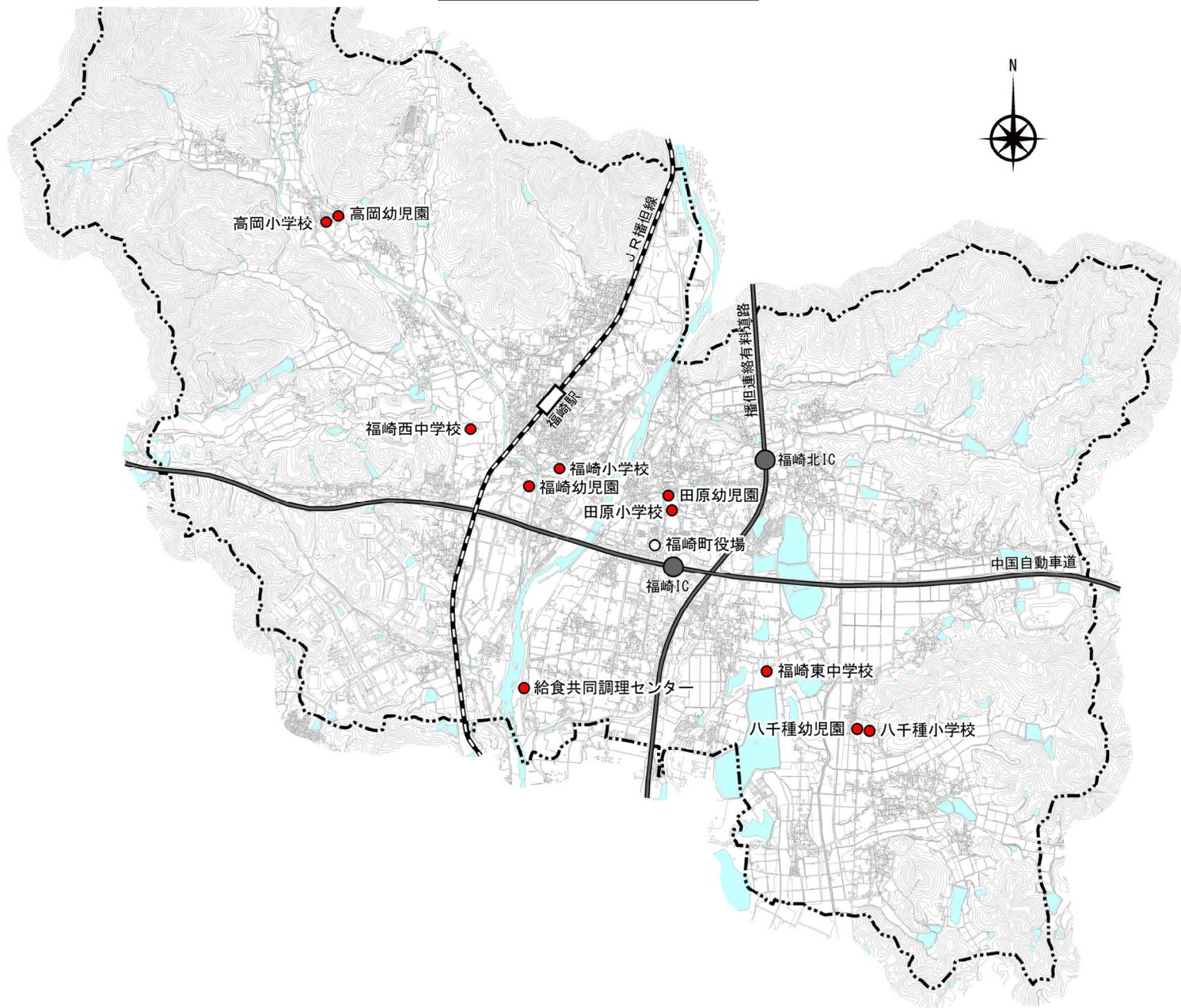


# 福崎町学校施設等長寿命化計画

～概要版～



福崎町キャラクター  
「フクちゃんサキちゃん」

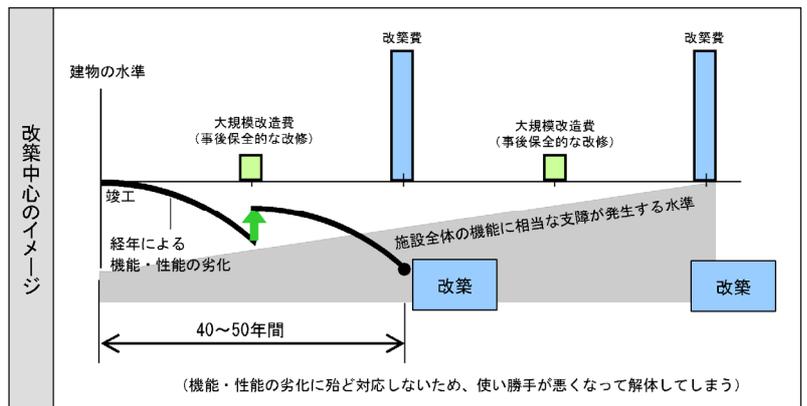
# 計画の背景・目的等

## 背景・目的

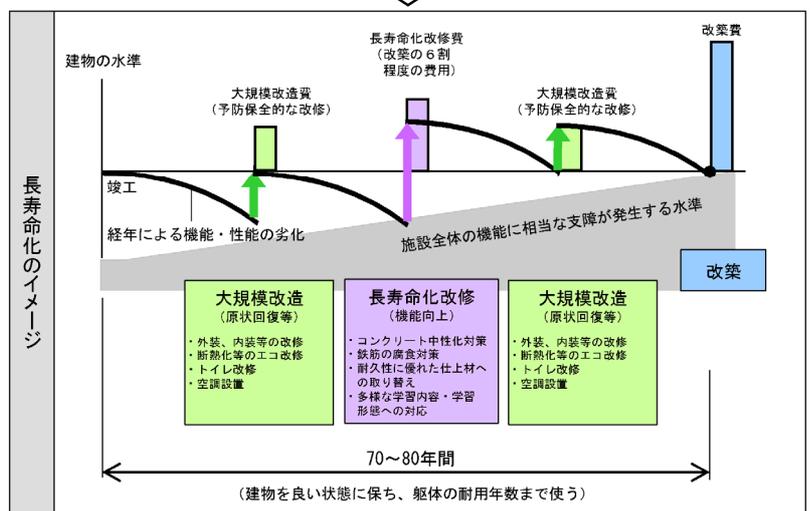
学校施設は、未来を担う子供たちが集い、生き生きと学び、生活する場であることはもちろん、地域住民にとっての生涯にわたる学習、文化、スポーツなどの活動や地域コミュニティの場であり、災害時は防災拠点や避難所としての役割も果たす重要な施設です。そのため、学校施設の老朽化対策は、先送りできない重要な課題ですが、これらの更新を進める上で将来的に多くの財政負担が必要となります。

本町においては、公共施設全般の効率的な維持管理を進めるため福崎町公共施設等総合管理計画を2016年（平成28年）度に策定しました。

学校施設等長寿命化計画は、総合管理計画の基本的な考え方にに基づき、学校施設等の劣化状況や将来的な需要見通しを踏まえ、各学校のあり方を考慮した上で、効率的・効果的な学校別・施設別の事業方法を選定するとともに、長寿命化のための事業計画を定めるもので、予防保全的な維持管理、計画的な修繕や改善等を通じてライフサイクルコスト（LCC）の縮減を図り、併せて中長期的な視点から財政負担を軽減・平準化を図ることを目的として策定するものです。



改築中心から長寿命化への転換のイメージ



## 計画期間

本計画の期間は、2019年（平成31年）度から2048年までの30年間の計画とし、概ね5年毎に見直しを行うものとします。なお、児童生徒数の変化、社会経済情勢、国の補助制度の動向により早急な対応が必要な場合には、随時見直すものとします。

## 対象施設

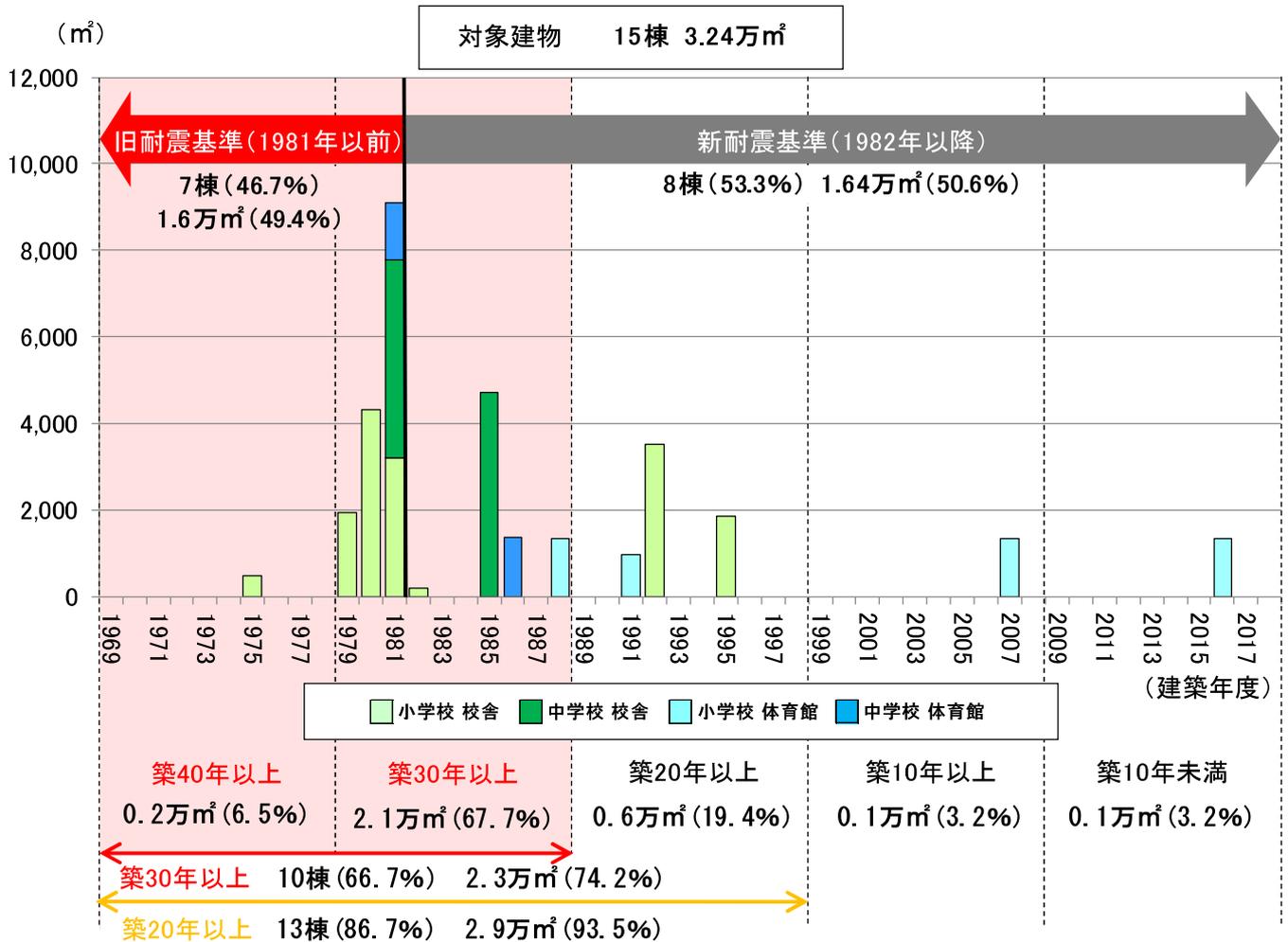
本計画における対象施設は、以下に示す全ての施設とします。

中学校（校舎、体育館、プール、グラウンド及び学校付帯施設）	2校
小学校（校舎、体育館、プール、グラウンド及び学校付帯施設）	4校
認定こども園	4園
給食共同調理センター	1施設

# 対象施設等の実態整理

## 学校施設の運営状況、活用状況等の実態

### 築年別整備状況



- 小中学校施設（校舎・体育館）15棟のうち、7棟が旧耐震基準で建築されています。
- 新耐震基準で建築された小中学校施設18棟のうち、8棟が築30年を経過しています。
- 築30年以上の施設が全体の74%（床面積）を占め、老朽化対策が課題となっています。
- 旧耐震基準で建築された校舎に対し、平成29年度に実施した耐震診断（コア抜き調査）では耐震性に問題のある施設はなく、全ての小中学校施設の長寿命化が可能という結果になりました。
- 外観目視検査においては、広範囲に劣化し、安全上、機能上、不具合発生の兆しが指摘されている部位が多数発生しています。

## 学校施設の目指すべき方向性

### 1. 安全・安心な学校施設

- 安全かつ安心な施設環境を確保します。
- 防犯対策や安全部材の採用などによる犯罪や事故を未然に防ぎます。
- 構造部材も非構造部材も耐震化を進めます。
- 避難所として必要な機能を整備します。
- 多目的トイレなど、ユニバーサルデザインやバリアフリー化を図ります。

### 2. 教育環境の質的向上（快適性・環境への適応性・学習活動への適応性）

- トイレの洋式化やエアコン整備など、児童や生徒が学習に集中できる環境を整備します。
- 環境に配慮した施設整備に積極的に取り組み、環境教育に生かします。
- 施設の木質化を図り、地域の産業や地球環境問題などについて学習する教材として活用します。
- ICT環境の一体的な整備を効率的に進め、児童・生徒一人ひとりの教育ニーズに応じて、少人数学習や特別支援教育に対応した施設を整備します。
- 時代に即した教育環境実現のために、教育・学習形態に柔軟に対応できる施設とします。
- 教職員等の事務負担や学校施設等の維持管理にかかる負担を軽減できる施設にします。

### 3. 地域の拠点化

- 生涯学習の場として、地域コミュニティを活性化することのできる施設とします。
- 将来の児童・生徒数に即しながら、社会情勢の変化に伴い、柔軟な対応ができるように施設の維持・活用を図ります。

### 4. 計画的・効率的な施設改修

- 学校施設が良好な状態を維持できるよう計画的な改修を実施して長寿命化を図り、公共施設全体のライフサイクルコストの縮減に寄与します。

## 学校施設整備の基本的な方針等

### 方針1：長寿命化の基本方針

- 定期的な点検及び計画的な改修により、安全で安心して学校生活を送ることができるよう施設を維持、確保します。
- 中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減・予算の平準化を実現するため、改築より工事費が安価で工期が短く、廃棄物や二酸化炭素排出量が少ない長寿命化改修への転換を図ります。

### 方針2：目標使用年数の方針

- 本町の学校施設は高い圧縮強度を確保しており、また、必要に応じ耐震補強を実施していることから、長寿命化する建物の目標使用年数として、80年を設定します。

### 方針3：機能や性能向上の方針

- 劣化した施設を単に建築時の状況に戻すだけでなく、時代のニーズに対応した施設への転換を目指します。また、日常の維持管理が行いやすいよう十分に配慮します。

### 方針4：予防保全の方針

- 利用者が安全に施設を利用するためには、施設・設備を適切に維持管理・改善していくことが不可欠です。従来の「事後保全」型の管理から、「予防保全」型の管理への転換を図ります。

#### ①メンテナンスサイクルの構築

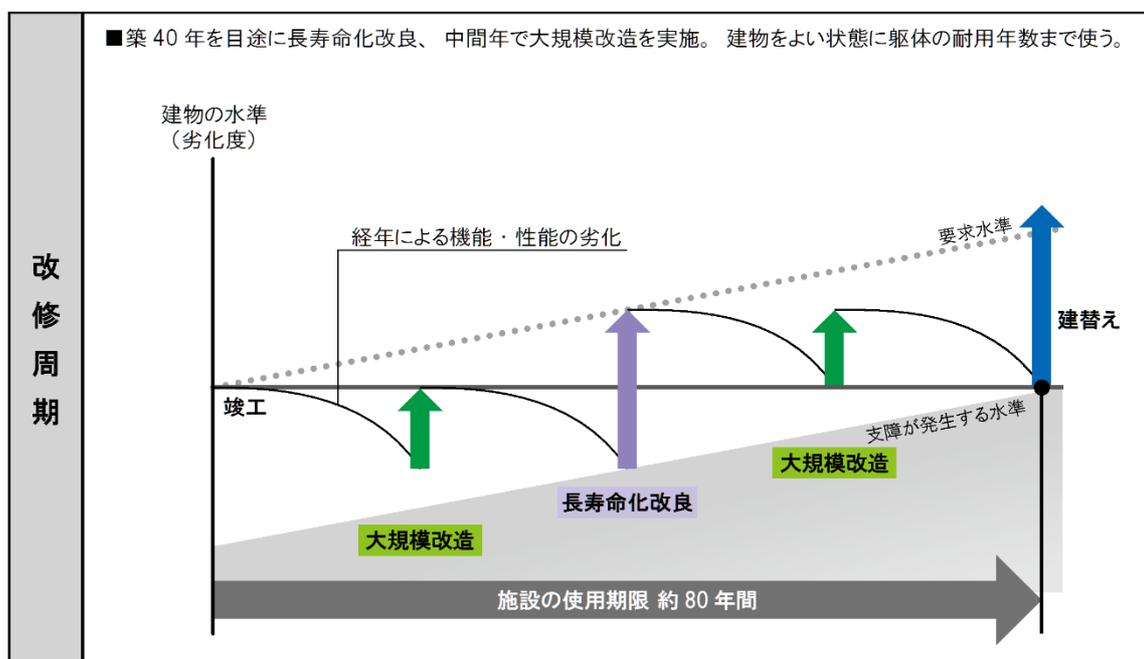
点検・診断の結果に基づき、必要な対策を適切な時期に、着実かつ効率的・効果的に実施し、施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用する仕組みを構築します。

#### ②多段階の対策

劣化や損傷が直ちに利用者や第三者の被害につながらないよう、施設の特性に応じて必要な多段階の対策（フェイルセーフ）を講じていきます。

### 方針5：改修周期の設定

- 部位・部材別の計画更新周期を基本として、竣工後約20年で機能回復のための大規模改造を実施し、目標使用年数の中間点である約40年で機能回復と耐用性、快適性等の向上のための長寿命化改修を行います。その後、約20年で再度大規模改造を実施することで、目標使用年数までその機能を維持します。



- 建築物は完成した時点から時間の経過により劣化が進行します。劣化の進行は建築物の部位により差があり、構造に重大な影響を与える場合もあるため、優先的に予防保全を実施すべき部位、あるいは、事後保全でも支障がない部位等、部位ごとの重要度を順位付けして取り組みます。

## 基本的な方針を踏まえた施設整備の水準等

建物の長寿命化や設備機器等の更新等により建物の耐久性を高めるとともに、児童・生徒にとって安全・安心で快適な生活環境や学習環境の改善を目的として、省エネルギー化や多様な教育形態による活動が可能となる環境の提供など、現代の社会的な要求に応じることのできる水準を確保します。

安全・安心な教育環境の確保（老朽化への適切な対応）				
① 屋上防水および屋根改修	② 外壁・外部建具改修	③ 内装改修	④ 電気設備改修	
⑤ 機械設備改修	⑥ 外構改修	⑦ 配膳室改修	⑧ 防犯対策	
⑨ バリアフリー改修	⑩ 防災機能の強化	⑪ 非構造材の耐震化		
教育環境の質的向上（快適性・環境への適応・学習効率の向上）				
① 空調設備の整備	② トイレ改修	③ 内装改修	④ エコ改修	⑤ 教育環境の向上改修
⑥ その他（通信設備の更新など）				
省エネルギー、エコ改修（断熱化や設備の高効率化・環境教育に活用）				
① 電気設備改修〈再掲〉	② 機械設備改修〈再掲〉	③ エコ改修〈再掲〉		

## 長寿命化改良等の実施計画

### 改修等の優先順位付けと実施計画

#### 1 実施計画の基本的な考え方

本計画は将来の児童・生徒数や財政・社会情勢の変化に合わせて、実施計画期間を5年毎に見直しを行いながら改修等の対策を進めます。

#### 長寿命化改良・大規模改造および部位修繕に関する考え方

- 長寿命化改良および大規模改造は、校舎、体育館で実施します。
- 築40年を経過した学校施設は、できるだけ速やかに長寿命化改良を実施し、築50年以上経過した学校施設は、長寿命化改良の実施の是非を検討します。
- 予防保全の観点から、大規模改造は、20年周期で実施します。
- 危険性がある部位などは、部位修繕および構造強度の低下を抑制する改修を検討します。
- 学校施設の改修工事の実施は、児童・生徒の安全確保、授業等の学校運営への影響、学校施設の規模や周辺環境を考慮した上で決定します。

#### 長寿命化改良に伴う施設の更新等に関する考え方

- エアコンの設置されていない特別教室等への設置を検討します。
- 外壁の外断熱改修や複層ガラス設置・通風による室内温熱環境改善等について検討します。
- トイレの洋式化については、長寿命化改良と同時に整備を行います。
- 全ての学校においてバリアフリー化を進めていきます。

#### 国庫補助事業に関する考え方

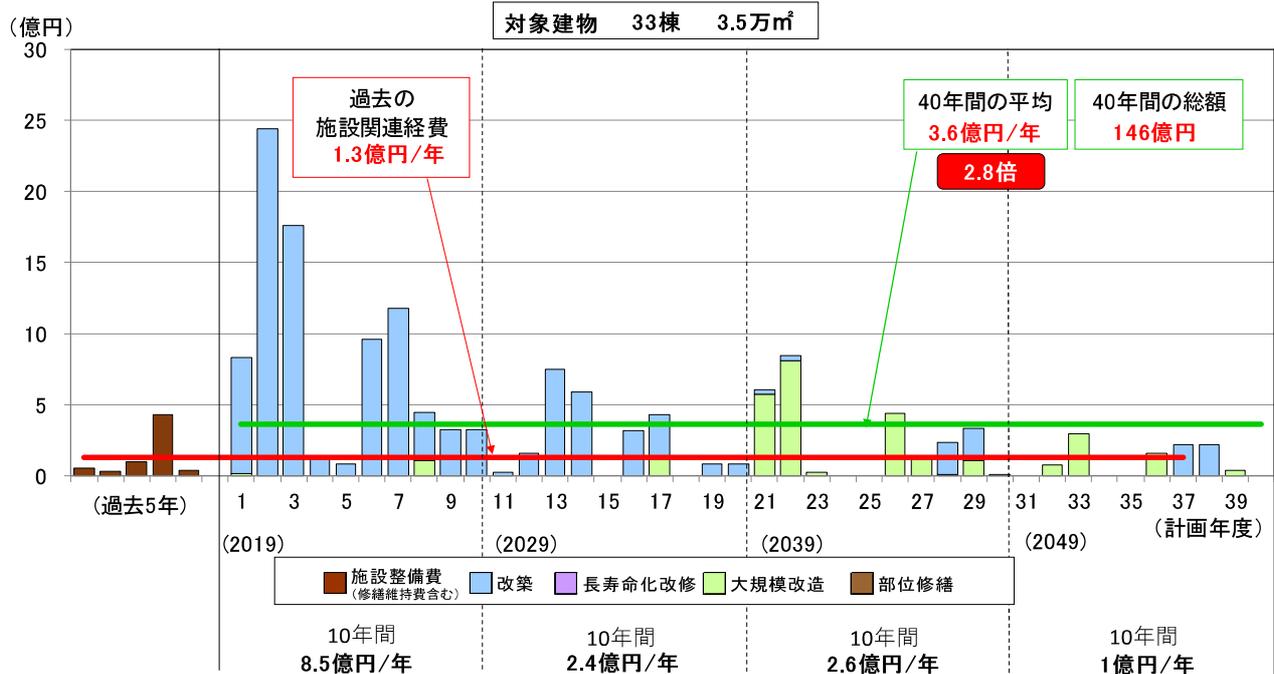
- 財政支出面での負担を考慮し、国庫補助事業を最大限に活用し財政支出の縮減を図ります。

## 2 改修等の優先順位付けの基本的な考え方

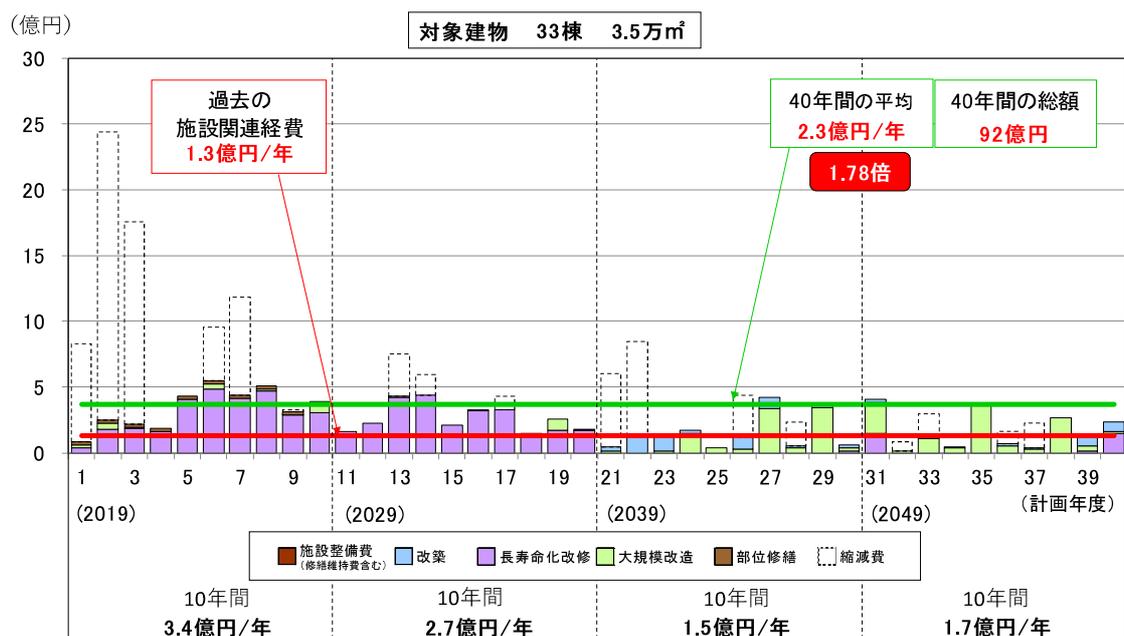
- 優先順位の対象施設は、校舎と体育館とします。
- 「劣化状況」「建築年次」「過去の改修履歴」「施設の運営状況」「避難所の施設基準」等に配慮しながら、劣化状況調査結果を基に棟毎に時期を設定します。
- 概ね5年後に、その時の「劣化状況」等により優先順位の計画を見直すものとします。

## 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果

### I 従来型の今後の維持・更新コスト（建替周期約40年のコスト試算）



### II 長寿命化型の今後の維持・更新コスト（費用の平準化に配慮した長寿命化のコスト試算）



# 長寿命化計画の継続的運用方針

## 情報基盤の整備と活用

効率的かつ効果的な施設整備を進めるために、「公立学校施設台帳」「定期・法定点検報告」ほか必要な情報を適切に管理し、今後の改修内容や時期などを総合的に判断します。

各データは、施設状況に変更が生じた際や改修、報告などが行われた際に適宜更新するほか、毎年度、更新の有無を含め内容を確認します。

## 推進体制等の整備

学校施設長寿命化計画を継続的に運用していくために、総合管理計画の基準・方針等を踏まえながら、教育委員会を中心にまちづくり課の技術職員、企画財政課などと連携し、全庁的な体制で本計画をもとにした学校施設マネジメントを行っていくものとします。また、日常管理・点検の充実に向けては、施設管理・点検マニュアルなどの整備を検討するとともに、マニュアルの実施に向けた研修会などにより、不具合箇所の早期発見・早期改修によりランニングコストの低減を図ります。

## フォローアップ

効率的かつ効果的な施設整備を進めるため、次のPDCAサイクルの確立が重要です。

- 〈Plan〉 施設点検・評価による現状を的確に把握した上で、それを踏まえた計画を策定（学校施設の長寿命化計画の策定）
- 〈Do〉 計画に基づき、適切な改修や日常的な維持管理等の実施
- 〈Check〉 整備による効果検証と、整備手法など改善すべき点についての課題整理
- 〈Action〉 次期計画に反映

学校施設の改修等事業を実施するには予算措置が必要です。町全体の財政計画と整合させていくとともに、事業の進捗状況や点検から得られる学校施設等に関する状況・評価などの結果に加え、社会の状況や他の公共施設の状況を踏まえた上で、必要に応じて見直しを図るものとします。

### 福崎町学校施設等長寿命化計画 ～概要版～

2019年（平成31年）3月策定

〒679-2280

兵庫県神崎郡福崎町南田原 3116 番地の 1  
福崎町教育委員会 学校教育課

TEL 0790-22-0560（内線 251）

FAX 0790-22-0630

E-mail [kyouiku@town.fukusaki.lg.jp](mailto:kyouiku@town.fukusaki.lg.jp)